

作成日 2010/07/13  
改訂日 2023/04/01

## 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 BPリキッド  
製品コード CE-F02-1344  
供給者の会社名称 宇部興産建材株式会社  
住所 東京都港区芝浦1-2-3 シーバンスS館  
電話番号 03-5419-6206  
FAX番号 03-5419-6265  
推奨用途 土木・建材用途に限る  
使用上の制限 土木・建材用途に限る

## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

分類基準に該当しない

## GHSラベル要素

注意書き  
安全対策 眼、皮膚、衣類につけないこと。(P262)  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)

応急措置 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)  
取り扱った後、手を洗うこと。

保管 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)

廃棄 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

## 3. 組成及び成分情報

## 化学物質・混合物の区別

## 混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
(メタ)アクリル酸エステル共重合体	50～60%	不明	6-644	公表	
鉱油	0.2～0.4%	不明			

## 4. 応急措置

## 吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

## 皮膚に付着した場合

水と石鹸で洗うこと。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

## 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。

## 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置 適切な消火剤 使ってはならない消火剤 特有の消火方法	水、粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、泡消火剤 情報なし 延焼の恐れがないように水スプレーで周辺を冷却する。 消火作業は、可能な限り風上から行う。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさない様に注意する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、ポンプで汲み取る。 少量の液体の場合、バーミキュライト、砂、土等不燃材料に吸収させ、空容器に回収する。後で廃棄処理する。 漏出した場所の周辺には、ロープを張り等の措置を行い、関係者以外の立ち入りを禁止する。
環境に対する注意事項	
封じ込め及び浄化の方法 及び機材	
二次災害の防止策	
7. 取扱い及び保管上の注意 取扱い	技術的対策 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 取扱い後はよく手を洗うがいをする。 直射日光、高温、多湿を避け、換気の良い場所に保管する。 保管時の温度は5℃以下あるいは40℃以上としないようにする。 最初の容器内でのみ保管すること。
保管	安全取扱注意事項 安全な保管条件
	安全な容器包装材
8. ばく露防止及び保護措置 設備対策 保護具	取扱いは換気のよい場所で行う。 適切な呼吸器保護具を着用すること。 ゴム手袋等を着用する。 保護眼鏡 適切な保護衣を着用すること。
	呼吸用保護具 手の保護具 眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態 形状 色 臭い 融点／凝固点 沸点又は初留点及び沸点 範囲	液体 液体 乳白色 微臭 融点:約0℃ 沸点:約100℃
可燃性 爆発下限界及び爆発上限 界／可燃限界	データなし データなし
引火点 自然発火点 分解温度	データなし データなし データなし
pH	7.0-9.0(水で50%希釈品)
動粘性率	2700mm <sup>2</sup> /s(40℃)
溶解度	水に可溶

n-オクタノール／水分配 係数		データなし
蒸気圧		データなし
密度及び／又は相対密度		1.1g/cm <sup>3</sup>
相対ガス密度		データなし
粒子特性		データなし
10. 安定性及び反応性		
反応性		知見なし。
化学的安定性		一般的な貯蔵・取り扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性		知見なし。
避けるべき条件		凍結させないこと。
混触危険物質		情報なし
危険有害な分解生成物		知見なし。
11. 有害性情報		
急性毒性	経口 経皮 吸入	分類できない。 分類できない。 気体: GHS定義による気体ではない。 蒸気: 分類できない。 粉じん、ミスト: 分類できない。 分類できない。 分類できない。
皮膚腐食性／刺激性		
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性		
呼吸器感作性		分類できない。
皮膚感作性		分類できない。
生殖細胞変異原性		分類できない。
発がん性		分類できない。
生殖毒性		分類できない。
特定標的臓器毒性(単回 ばく露)		分類できない。
特定標的臓器毒性(反復 ばく露)		分類できない。
誤えん有害性		分類できない。
鉱油として		
急性毒性(経口)		ラットLD50: > 5000mg/kg
急性毒性(経皮)		ラットLD50: > 5000mg/kg
急性毒性(吸入: 粉じん、 ミスト)		ラットLC50=2.18mg/L(ミスト)
皮膚腐食性／刺激性		ウサギ: 軽度の刺激性
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性		ウサギ: 軽度の刺激性
呼吸器感作性		モルモット: 呼吸器感作性なし
皮膚感作性		モルモット: 皮膚感作性なし
生殖細胞変異原性		ラット体細胞in vivo変異原性試験: 陽性
発がん性		IARC: グループ3
特定標的臓器毒性(単回 ばく露)		ラットの吸入暴露により肺への影響が報告されて いる。
特定標的臓器毒性(反復 ばく露)		ヒトへのばく露で廃および皮膚への影響が報告さ れている。
誤えん有害性		ヒトで吸入により油性肺炎又は化学性肺炎の報告 がある。
12. 環境影響情報		
水生環境有害性 短期(急 性)		分類できない。
水生環境有害性 長期(慢 性)		分類できない。
生態毒性		データなし

残留性・分解性  
生体蓄積性  
土壌中の移動性  
オゾン層への有害性

データなし  
データなし  
データなし  
データ不足のため分類できない。

13. 廃棄上の注意  
残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。  
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。  
廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。  
容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

汚染容器及び包装

14. 輸送上の注意  
国際規制

海上規制情報  
Marine Pollutant  
Liquid Substance  
Transported in Bulk  
According to  
MARPOL 73/78,  
Annex II, the IBC  
Code

該当しない  
Not applicable  
Not applicable

国内規制

航空規制情報  
陸上規制  
  
海上規制情報  
海洋汚染物質  
MARPOL 73/78 附  
属書II 及びIBC コー  
ドによるばら積み輸  
送される液体物質  
航空規制情報

航空法の定めるところに従うこと  
消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められる運送方法に従うこと  
船舶安全法の定めるところに従うこと  
非該当  
非該当  
該当しない

15. 適用法令  
労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)

毒物及び劇物取締法  
化学物質排出把握管理  
促進法(PRTR法)  
消防法

・鉱油(法令指定番号:168)  
非該当  
非該当  
  
非危険物

16. その他の情報  
参考文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices  
日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告  
日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン  
JISZ7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法。  
JISZ7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)。  
独立行政法人製品評価技術基盤機構(nite)「GHS関連情報」

## 記載内容の取扱い

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証もなすものではありません。また、注意事項は通常の見方を対象としたものですので、特別な見方をする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。